

概要報告

実施期日	7月31日(金)
部会名	中学校 道徳部会

テーマ 『豊かな人間性をはぐくみ、お互いを尊重する心を育てる道徳教育』

提案概要

近年のいじめは陰湿化する一方、問題が顕在化しにくく、事態が深刻になりやすいとされている。本校では、いじめ防止の取組を最重要課題と捉えて、いじめ根絶を目指している。そのための方法として生徒にアンケート調査(年2回)を行い、気になる回答には個別に教育相談を行うなど早期発見・早期対応に努めている。また、未然防止の視点から、道徳の年間計画にいじめに関する重点項目を設定し、好ましい人間関係を築き、豊かな心を育て「いじめを生まない土壌づくり」にも取り組んでいる。

いじめ防止の授業を行う対象学年は2学年で、11月、1月、3月と三回実施する。

1回目は『いじめは犯罪』というテーマで行い、学校で見られる様々な行為について、いじめと思うかどうか意見を出し合い検討する。いじめの定義を話し合い、行動している側と受け取る側での認識の違いがいじめにつながることを確認し合った。

2回目は『いのちを大切に』というテーマ。人の死に関わる仕事をしている人を紹介する映像教材を見て、自分の命も他人の命も大切にする意識を育てる授業を行った。

3回目は『傍観者』というテーマで行い、「いじめの傍観者」とはどのような立場かを考えさせるワークをウォーミングアップで行い、続いて「葬式ごっこ 八年後の証言」という資料を読んだ。資料は、中学生によるいじめ自殺を経験したクラスメイトの証言である。傍観者の立場について考えさせる文章で、いじめに直接関わっていない傍観者も加害者や被害者になっていることを考えさせた。

質疑概要

質問：道徳の授業で参考にしてきた「いじめアンケート」はいつ実施しているのか。

回答：生徒指導部から年に2回アンケートが出るので、それを使用している。

質問：学年で同じ題材の道徳を扱うとき、映像教材の扱いはどうしているのか。

回答：DVDを使用する場合は、授業変更で道徳の時間をずらして見せる。場合によっては、学年一斉に体育館で見せる場合もある。

質問：道徳の授業内容は、誰が考えているのか。

回答：学年ごとに道徳担当がいるため、それぞれの学年で考えることになっている。

質問：この授業(今回の実践、全三回)を行う時期はいつの段階で決めているのか。

回答：年度初めに計画した通りに行う。反省に関しては年度末に行い、それを次の年度に引き継ぐようにしている。

質問：1年生と3年生はいじめについてどのような取組をしているのか。

回答：1年生は「友だちを大切に」をテーマに、3年生は「集団として」をテーマに資料を用いて道徳を行っている。

質問：副読本は何を使用しているのか。

回答：副読本は使用せず、自作の資料を用いる場合が多い。「私たちの道徳」も使用する場合がある。

研究協議概要

【協議の柱】

1. 年間を通して継続的に取り組む道徳授業や、学校や学年として取り組む道徳教育の実践と工夫について
2. 授業評価（生徒の活動のフィードバック方法）について

※4人グループに分かれて協議を行い、その後グループを変更して再度協議を行った。

【協議内容】

〔協議の柱1について各校の取組〕

- ・道徳の資料は、どの学校も学年ごとに検討しており、年度初めに年間計画を作成する段階で方向性を決める学校がほとんどであった。
- ・副教材を使用している学校がほとんどで、副教材を読んで意見の共有をしたり、感想を書かせたりといった授業が多かった。中には「コの字形」での討論形式を採用している学校がいくつかあった。
- ・道徳の授業を学年職員全員でローテーションする。その場合、資料は各クラス担当がそれぞれ用意し、後に共有し合う。
- ・管理職による学年（もしくは学校）一斉道徳を行う。
- ・管理職が道徳の回数35回が適正に行われているかをチェックしている学校もあった。
- ・「私たちの道徳」の活用の仕方について意見交換のなかで、どの部分をどの学年で扱うと良いか分類し、学校内で共通理解しており、年間計画を作る時の資料とする取組があった。

〔協議の柱2について各校の取組〕

- ・学級通信や学年通信を活用して、生徒にフィードバックする。
- ・感想を付せん紙に書かせて、教室内に掲示して共有する。
- ・感想用紙を実物投影機で黒板に映す。
- ・感想用紙に一人ひとりコメントをする中で、教師の主観を入れるべきではない。教師の主観が入ってしまうと、生徒の道徳的価値観を強制することになりかねない。コメントをする場合には「よく考えていますね」や「しっかりと自分の意見が書けています」など客観的なコメントにすべき。
- ・道徳の授業ごとの感想やワークシートを蓄積するために、全員にA4のノートを配布し、そこに感想を書かせる。ワークシートを使用する場合はB5で作成し、ノートに貼らせる。そうすればプリントをなくす生徒がいなくなる。ノートは40ページ程度のもを使用し、表紙の裏に「なりたい自分」を、裏表紙に「成長した自分」を書かせる。一年間で一冊のノートが完成することになる。

まとめ概要

道徳の年間計画の中にいじめに関わる授業を取り入れることで、計画的かつ発展的な指導ができる。それはいじめ防止という観点でも有効で、いじめをしない“資質”をじっくりと育てていくような授業を学校全体で考えていくことが大切である。

これからは、目の前にいる生徒の一場面を見て、短絡的に指導項目を決めていくような授業はふさわしくない。そのために各校道徳の授業の年間指導計画を整備していく必要があるのではないかと。